

# 学校運営協議会議事録

作成日 令和7年11月17日

作成者 鈴野 春花

会議名:令和7年度 第2回小田原高等学校 学校運営協議会

日時:令和7年11月17日(月) 15:00~17:00

場所:第一会議室

## 時程・議題

(1) 開会・校長挨拶 15:00~

(2) 学校運営協議会(司会 小見山副校長 / 記録 鈴野教諭・溝淵教諭) : 15:05~16:15

### 【学校評議委員会委員、学校担当職員】

① 石野会長挨拶

② 令和7年度学校評価中間報告について(各グループ)

#### 全日制課程

[田中 雄士 ・教 務グループ 総括教諭]

[山口 真也 ・研究開発グループ 総括教諭]

[細川 和也 ・生徒支援グループ 総括教諭]

[三井 栄慶 ・キャリアガイダンスグループ 総括教諭]

[菊地原 孝祐・総 務グループ 総括教諭]

[二宮 賢一 ・広報情報グループ 総括教諭]

#### 定時制課程

[辻 潤也 ・学習支援グループ 教 諭]

[鈴木 大地 ・教育活動推進グループ 総括教諭]

③ 質疑応答・委員からの意見聴取

1 地域連携部会の視点から(司会 岡村 定時制教頭)

2 学校評価部会の視点から(司会 高山 全日制教頭)

④ その他

今後の予定

第3回 3月上旬~中旬 (予定)

協議(取組報告、意見聴取、情報交換)、全日制部活動視察

(3) 閉会・校長挨拶

(4) 定時制授業視察 16:15~17:00

校長

副校長

事務長

教頭(全)

教頭(定)

## ≪全日制≫

総務総括

教務総括

研究開発総括

キャリア総括

生徒支援総括

## ≪定時制≫

学習支援総括

教育活動総括

## (2) 協議

- ① 石野会長より
- ② 令和7年度学校評価中間報告について（各グループ）

全日制課程

[田中 雄士・教務グループ 総括教諭]

- ・教務グループと研究開発グループが連携して、「理数探究」を3クラス同時展開とし、生徒の探究活動を支援するために教科のバランスに配慮した授業担当者を配置することができた。
- ・今後は授業担当者の配置が適切かどうか、検証し、次年度に向けた講座編成を検討したい。

[山口 真也・研究開発グループ 総括教諭]

- ・生徒による授業評価の評価項目3及び6の回答の「(項目4)かなり当てはまる」を50%以上にしたい。目標は達成できなかったが、良化傾向にある。
- ・評価が高い科目の授業見学を推進し、組織的な授業改善を行いたい。

- ・SSHが3年目になる。

「理数探究」の時間で研究報告会を行った。外部から指導、助言を頂くことで研究が進んだ。

課題研究デーでは、1・2年次が課題研究を進めた。課題研究デーについてのアンケートを実施したところ、9割が肯定的な評価をしていた。

1年次は2年次の活動を見学することで、2年次は1年次に研究内容の説明をすることで、互いに理解が深まった。

- ・課題研究活動において、地域の外部関連機関と連携することができた。

小田原市役所・連携企業との取組をより充実させたい。

県西地域県政総合センター主催の「地域の若者を対象とした未来を考えるプロジェクト」に本校より4名参加した。

今後は、1年次は見学、2年次は発表する機会を充実させたい。

[細川 和也・生徒支援グループ 総括教諭]

- ・文化祭、体育祭をより安全に実施できるよう、文化祭では著作権について、体育祭では熱中症についてなど、ルールの見直しを行った。

体育祭の予行実施日は気温が高く、当日は雷予報が出ていたため、代替プログラムを用意していたが、通常通り実施することができた。不測の事態に備えた準備ができた。

今後は開催時期についても検討していきたい。

- ・部活動活動報告。上位大会で活躍している部活動がある。科学部、陸上競技部等。
- ・教育相談について、SCの利用者が多い。担任などの職員で情報共有をし、生徒の状況に応じて必要な対応をしている。

今後は医療機関の予約を取ることや、食事面でもサポートを依頼予定。

[三井 栄慶・キャリアガイダンスグループ 総括教諭]

- ・推薦の試験が進められている段階。既卒生からも問い合わせがきている。

推薦の希望者の推移は前年並みである。

- ・進路指導支援において、高い目標設定をさせている。そのため、国公立大学の志望者数が増えた。前年度より50人増加。

- ・生徒の意欲の高まりに応じてより精度の高い指導体制の確立が課題である。

生徒の進学状況実力試験の情報交換会の情報を、担任の面談で使用。

- ・キャリア面では、社会で活躍する先輩方の話などの講演会を行い、生徒が夢を描けるようサポートしたい。

- ・今後、3月に進学実績について示す。

[菊地原 孝祐・総務グループ 総括教諭]

- ・防災避難訓練を行った。年に2回実施している。  
定時制の避難訓練は具体的な内容だった。  
全日制は防災地区別集会を行った。非難後に30地区に分け、有事の際の帰宅を想定した。  
次回火災などの訓練を行う。
- ・地域貢献デーを実施した。1、3年次は雨天のため中止。
- ・同窓会について、「青春かながわ校歌祭」に同窓生とともに野球部、剣道部の在校生が参加した。
- ・3月に卒業式を予定している。

[二宮 賢一・広報情報グループ 総括教諭]

- ・地域や中学生への広報として、学校HPを積極的に更新したい。徐々に更新頻度が増している。  
SSHなどの取組も随時更新していきたい。
- ・中学生対象の第三回学校説明会が終了した。これで、今年度の小田原高校の学校説明会は全日程終了した。参加者の人数は例年並みである。  
SSHや学力向上進学重点校であることを強調し説明した。  
生徒会の生徒や卒業生が小田原高校についてを説明をしていることについて、来場者から評価を頂いている。  
より生徒の様子を外に紹介していけると小田原高校の魅力が伝わるのではないかと。
- ・次年度以降はいつ、どのような説明会を実施するか検討したい。

[小見山副校長]

- ・電話自動応答により勤務時間外の電話対応がなくなった。  
早朝、放課後の業務が減るため、効果的だった。  
時間外在校時間を短縮し、家庭の時間やリフレッシュに使ってほしい。
- ・事故、不祥事防止について研修会で話をしている。被害に遭った生徒について、自分ごととして考えるよう指導していきたい。

定時制課程

[辻 潤也・学習支援グループ 教諭]

- ・教育課程・学習指導について  
今年度の年間目標は、授業を通して自己肯定感を高めることと、ICTツールの活用。  
現時点での達成状況は、前期授業評価におけるすべての項目への肯定的評価は79%、自身の学習状況についての肯定的評価は77%に達している。  
ICTの活用に関しては、79%が活用できていると回答、他者との協働的な学びについては、76%が肯定的な回答をしている。  
今後の課題としては、「授業内容が難しい」、「パソコンやスマホをもっと使いたい」という声もあり、さらにICTの活用を進め、理解が深められるような授業を展開していきたい。
- ・地域等との協働について  
7月の地域清掃活動について、城山中学校と地域の自治会にも呼びかけ、中学生と協力して清掃活動を行うことができた。  
また、夏休みには一部の生徒が地元の保育園のインターンシップや、夏祭りのボランティアに参加した。  
広報活動については、学校説明会やオープンスクール、文化祭の案内などの送付範囲を今年度は県西地区だけでなく、平塚・秦野・伊勢原・中郡にまで広げた。そういった地域の生徒が学校見学に来て

いる。今後も案内送付の範囲拡大が見学・相談者の増加につながっているか評価していく。

[鈴木 大地・教育活動推進グループ 総括教諭]

・生徒指導・支援について

学校全体の雰囲気や授業の様子については、生徒数は増えているが非常に落ち着いている。しかし、一部ルールを守れない生徒もいるため、より規範意識を向上させたい。

「かながわ子どもサポートドック」以外にも、SERAPLUS というアンケートを実施して、生徒の実態把握に努めている。生徒数が少ないため、課題把握しやすく、個々に応じた対応ができています。

・進路指導・支援について

部活動加入率は一昨年度 26%、昨年度 38%、今年度 49%と年々増加している。

先日の文化祭では、鈴廣から練り物の提供を受けるなど地域からの支援もいただいている。

学校行事については、生徒主体での運営ができるようになってきている。しかし、生徒会行事や部活動が活発化しているため、従来の備品では不足している部分があり、計画的に物品購入を行って環境を整えたい。

進路について、就職に関しては売り手市場で、希望する進路に早めに決まっている状況。

・学校管理・学校運営について

防災に関して、5月には地震を想定した訓練を行い、8月にはDIG研修を実施した。

後期は火災から停電という複合災害を想定した避難訓練を行う予定。

課題として、防災資機材が不足しているため、今後整備を進めていく。

[岡村教頭（定時制）]

・不祥事防止について

職員会議の際に不祥事防止研修会を実施している。

不祥事が発生した際には、情報の共有と注意喚起を行っている。

・働き方改革について

定時制に関しては、時間外労働時間 45 時間を超える職員はいない。

職員が少ないため、どのように効率的に業務を進めていくか、また次年度に向けた引継ぎなど、仕事の横展開を進めたい。

③ 質疑応答・委員からの意見聴取

1 地域連携部会の視点から（司会 岡村教頭（定時制））

◎ [石野会長]

・生徒自身が持っている可能性、自信を引き出したい。

生徒が取り組んでいる状況、成果等について、保護者だけでなく、地域にも発信してほしい。

◎ [和田委員]

・地域連携活動を中学生とやるのはよい取組だ。

・選挙権持っている生徒もいる。

→小田原高校では模擬投票を行っている

定時制 選挙に行く理由や選挙の重要性を学び、実際の立候補者を使って模擬投票行った。

全日制 一年生公共の授業で全員、3年は選択科目の政治経済の授業履修者、それ以外は希望者のみ投票を行った。

・今夏は異常な暑さだった。

教育相談を受けるが、今夏はあまり動きがなかった。無駄な外出控えるように言われていたためかもしれない。

普段学校に通っている生徒はあまり影響がない。また、放課後児童クラブに参加する生徒も、夏休み

中も参加しているが、不登校生徒は参加できていない。

夏休みの過ごし方について、生徒に応じた対応を教員がしてほしい。

- ・災害について、予想できるものでは対応できないため、変化に対して順応できるようにしてほしい。

◎ [中山委員]

- ・地域清掃を7月に高校生と実施した。高校生の姿を見て学ぶことがあったが、これが日常になる事を目指したい。

- ・「理数探究」について、中学校でも探究活動を積極的に進めていこうとしている。基礎的な部分を高校生から中学生に投げかけてほしい。教員からではなく、高校生から中学生へ投げかける方が活動に火をつけられるかもしれない。

- ・避難訓練について、中学校も同じように実施している。年に一回小学校と合同で実施している。

最近、津波警報がでた時に一時避難をし、保護者引き取りのもと帰した。実際に津波は到達しなかったが、このような避難が現実か判断に迷った。自分たちのことだけではなく、地域に貢献していかないといけない。中学生、高校生として、有事の際にどうしていきべきなのか考える必要がある。地域に貢献できる避難活動をしたい。

→全日制は学校からは帰らない指示を出した。

情報を集め安全が確認し、帰れる生徒から帰した。

帰る場合は保護者からの連絡を必須とした。

津波避難者が来る可能性があったため、視聴覚室を開放した。実際には、地域から1名が小田原高校に避難した。

2 学校評価部会の視点から（司会 高山教頭（全日制））

◎ [和田委員]

- ・進路情報説明会を7回実施する。

不登校の生徒は通信制の学校に通い続けることが難しい。

定時制の魅力をコンパクトに主張したほうがよいのではないかな。

→近隣の中学校には説明をし、実体験等の魅力を伝えている。

⇒不登校生徒は登校していないため、それでは情報が入らないのではないかな。

◎ [石田委員]

- ・教員が一生懸命やっていることを胸を張って発信してほしい。

- ・文化祭の整列対応について、生徒が受付をしてくれた。

P T Aが手伝えることなく実施することができた。

体育祭では生徒が資料の配布等を率先してやってくれた。温かい雰囲気だった。

今後も受付業務等は今年同様にやってほしい。

- ・電話対応、欠席連絡について

都合上、学校に電話連絡をすることができないことが多かったが、teamsの使用により可能になった。教員の業務の負担が減ったのがよい。

④ その他

[資料]

① 配付資料一覧、座席表

② 令和7年度 第2回学校運営協議会次第

③ 令和7年度 小田原高等学校学校運営協議会について

④ 全日制配付資料

⑤ 定時制公開授業一覧